

平成 27 年度第 3 回炭酸塩岩分科会・講演会のご案内

春寒ようやくゆるむ候、下記の要領にて講演会を開催いたしますのでご参集下さい。

日 時： 2016 年 3 月 23 日(水) 16:00～17:30

場 所： JX 石油開発株式会社 (JX ビル 3 階 0322 会議室)

〒100-8163 東京都千代田区大手町 1-1-2 JX ビル(移転先新ビル)

<http://www.nex.jx-group.co.jp/corporate/map.html>

懇親会会場 JX ビル内施設にて立食形式(予定) 17:30～

講演タイトル:「水文学的アプローチによる炭酸塩岩貯留層の浸透特性と炭酸塩続成作用
～沖縄県南大東島を例として～」

話題提供者: 熊本大学大学院自然科学研究科 松田 博貴 教授

内 容:

近年、炭酸塩岩貯留岩の探鉱は、これまでの北米・中東の中・古生界に代表されるような大規模な炭酸塩プラットフォームに伴うものから、東南アジア新生界にみられるような小規模で、また複雑な貯留岩がターゲットとなってきた。これらは孤立型プラットフォームとして発達していたり、顕著な淡水性続成作用やドロマイト化作用を被っており、そのトラップタイプも多様で変化に富む。このような貯留岩の検討では、薄片やコアスケールでの検討に加え、貯留岩体全体での岩相や孔隙率・浸透率の不均質性についての検討が不可欠である。沖縄県南大東島は、沖縄本島の東方約 340km に位置し、東西約 4km、南北約 6km の小島であり、ドロマイトと石灰岩により構成される。これまで我々のグループでは、南大東島を構成する大東層の炭酸塩岩について、堆積岩岩石学的、地球化学的、ならびに水文地質学的観点から、総合的に検討してきた。そこで分科会では、特にこの数年にわたり集中して実施してきた、水文地質学的検討から見てきた貯留岩体の不均質性について紹介すると共に、地表から帯水層に至るまでの間に起きている淡水性続成作用について報告する。

参加希望の方は、お名前・メールアドレス、話題提供・懇親会参加の有無を明記の上、
3/18(金)までに、[JAPEX 八木 masahiko.yagi@japex.co.jp](mailto:masahiko.yagi@japex.co.jp)、cc [INPEX 朝田 jiro.asada@inpx.co.jp](mailto:jiro.asada@inpx.co.jp)、cc [JX 石油開発 安河内 yasukochi.toru@jxgr.com](mailto:yasukochi.toru@jxgr.com) までご連絡ください。
よろしく申し上げます。

炭酸塩岩分科会 世話人 朝田・八木